



病床数 **221**床
 新所沢駅から徒歩**8**分
2023年**11**月**25**日(土)
新規開院

ガマテグループ
 社会医療法人社団 埼玉巨樹の会
所沢美原総合病院
 〒359-0045 埼玉県所沢市美原町2丁目2934-3
 お問い合わせ **04-2997-8199**
 ■ 所沢美原総合病院HP <https://tmgh.jp/>

一般社団法人 巨樹の会 新宇都宮リハビリテーション病院

新宇都宮

Shin-Utsunomiya Rehabilitation Hospital PR Magazine

タイムズ



2024
Vol.06

CONTENTS

- | | |
|-----------------------|--------------------------------|
| 2 入職式
新入職員歓迎会 | 6 リハビリテーション
スタッフご当地自慢 |
| 3 入職のご挨拶
1年目職員紹介 | 7 実績DATA
むすびプロジェクト |
| 4 VE? VF?
防災訓練 | 8 所沢美原総合病院
新規開院
交通のご案内 |
| 5 学会発表 | |



交通のご案内

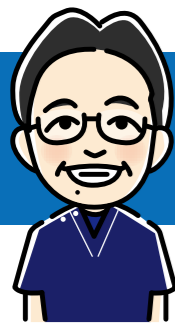


お車でのご来院
 ・東北自動車道 宇都宮ICより約40分
 ・東北自動車道 鹿沼ICより約30分
 ・北関東自動車道 宇都宮上三川ICより約20分
 ・JR宇都宮駅東口より鬼怒通りを進み約6分

公共交通機関でのご来院
 ・LRT
 「JR宇都宮駅東口」停留場より約5分
 最寄停留場名
 「陽東3丁目(新宇都宮リハビリテーション病院前)」より徒歩**3**分

ガマテグループ 一般社団法人 巨樹の会
新宇都宮リハビリテーション病院
 〒321-0941 栃木県宇都宮市東今泉2丁目5番31号
TEL 028-666-4880
FAX 028-666-4887

当院HP

病院長雑感

平素より大変お世話になっております。今回は、日ごろ考えていることの一部を、雑感という形で書かせていただきます。

まずは、リハビリテーション医療を希望する患者さんの数です。当院の病床数は240床ですが、ここ4か月の病床利用率は98%以上、そして、系列の宇都宮リハビリテーション病院と新上三川病院の回復期リハビリテーション病棟も同じような利用率ですから、3病院合計507床の回復期リハビリテーション病棟がほぼ満床で推移していることになり、その分、お待たせする期間が少しずつ長くなっており、その点では様々な工夫をしている状態です。皆様のご期待に少しでも早く応えられるように取り組んでいきたいと思っております。

次は、LRT (Light Rail Transit: 宇都宮市の次世代型路面電車) です。当院の入院患者の20%は宇都宮市以外の県北や両毛地区等から、5%は県外からの転院です。その時に患者さんやご家族の足となるのがLRTであることを実感しています。もちろん、職員の通勤手段にもなっています。当

院最寄りのLRTの駅名は、ネーミングライツを利用して、「陽東3丁目(新宇都宮リハビリテーション病院前)」となっています。当院が駅名に恥じぬようなランドマークであり続けるように成長していければと思っています。

最後に、病院を改善していくためには第三者の意見が重要だと思っています。そこで、ご意見箱、入院時や退院時のアンケート、地域の皆さんからのご意見、職員からの提案などを参考に、様々な改善を行うシステムを作りました。皆さんからの厳しいご指摘、ご指導をお待ちしています。また、この3月には、公的な第三者評価として日本医療機能評価機構の病院機能評価を受審することにしました。受審のための準備を通して病院のレベルアップを図るべく作業を進めています。

新宇都宮リハビリテーション病院は、「思いやる」、「多職種連携」、「明るく楽しく」を基本姿勢にこの1年半活動してきました。今後も「あそでリハビリをしておよかった」と思ってもらえるよう取り組んでまいりますので、引き続きのご支援をよろしくお願い申し上げます。

病院長 佐藤 道哉

認知症ケア加算とは

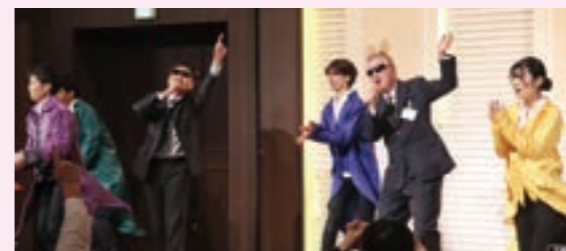
認知症ケア加算とは、認知症に関する研修を修了した職員を配置し、多職種が適切に対応することで、認知症症状の悪化を予防し、身体疾患の治療を円滑に受けられることを目的とした評価です。

以下の日常生活自立度Ⅲ以上の症状が見られる方を中心に、多職種によるケアに一層努めていきます。

認知症高齢者の日常生活自立度

ランク	判定基準	見られる症状・行動の例
I	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している。	
II	日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる。	
II a	家庭外で上記IIの状態が見られる。	たびたび道に迷うとか、買物や事務、金銭管理などそれまでできたことにミスが目立つ等
II b	家庭内でも上記IIの状態が見られる。	服薬管理ができない、電話の応対や訪問者との対応など一人で留守番ができない等
III	日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さが見られ、介護を必要とする。	
III a	日中を中心として上記IIIの状態が見られる。	着替え、食事、排便・排尿が上手にできない、時間がかかる。やたらに物を口に入れる、物を拾い集める、徘徊、失禁、大声・奇声をあげる、火の不始末、不潔行為、性的異常行為等
III b	夜間を中心として上記IIIの状態が見られる。	ランクIII aに同じ
IV	日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする。	ランクIIIに同じ
M	著しい精神症状や問題行動あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする。	せん妄、妄想、興奮、自傷・他害等の精神症状や精神症状に起因する問題行動が継続する状態等

当院では認知症の患者さんに、多職種で適切なケアを行っています。また、抑制解除にも力を入れており、カンファレンスを毎日行っています。



12月21日、ホテル東日本宇都宮にて「令和5年宇都宮リハビリテーション病院・新宇都宮リハビリテーション病院合同忘年会」を行いました。

ご来賓として、蒲池会長、中野関東統括本部長、仙波看護局エグゼクティブアドバイザーをお迎えしました。

美味しいお料理をいただきながら、たくさんの職員と交流することができました。余興では、両病院2つずつ出し合い、この日のために練習してきた努力の花が咲き、大いに盛り上がりました。また、大抽選会も行われ、職員からたくさんの笑顔があふれ、とても楽しい一時になりました。

当病院は、多職種連携を大切にしています。忘年会を通して、職員同士の絆がより一層強固なものになりました。



12月27日に新上三川病院、宇都宮リハビリテーション病院、新宇都宮リハビリテーション病院の栃木3病院合同で、餅つきを行いました。

当日は、当院の屋上リハビリガーデンにて、お米を炊くところから始まり、炊いたお米を臼でつきました。4人でリズムカルにつく姿は、圧巻でした。

ついたお餅は、多数の方にご協力いただき、テキパキかつ和気あいあいと丸め、色々な味付をして職員に振舞われました。

患者さんにも見ていただくことができ、日本の伝統や季節を感じていただくとても貴重な機会になりました。





VE?VF?

どちらも飲み込みの評価をする検査です。嚥下運動は外見からだけでは視ることが出来ず、評価しにくいので、検査を通して適切に評価していき、嚥下障害（誤嚥）による食事摂取量の低下や肺炎を適切に予防していくことに繋がっていきます。

VE (嚥下内視鏡検査)

1 目的

トロミ水、ゼリー、実際の食事内容を用いて、誤嚥がないか？摂取量はどのくらいか？を観察し、食事形態や一口量・摂取姿勢の調整をしていきます。

2 実施場所

ベットサイド、リハビリ室

3 所要時間

15～30分程度

4 方法

鼻から鼻咽腔喉頭ファイバー（内視鏡）を挿入して、直視下で嚥下状態を観察する検査です。食物の飲み込みを観察したり、声帯の動きを評価します。

VF (嚥下造影検査)

1 目的

造影剤を混ぜた食事をレントゲン下で写して、食べ物がきちんと食道に入っていくか、飲み込みまでの一連の流れを見る方法です。

2 実施場所

レントゲン室

3 所要時間

20～40分

4 方法

レントゲン室に出棟し、造影剤を使用し、X線透視下にて嚥下状態を観察する検査です。嚥下までの一連の流れを評価できます。



当院では、定期的にVE・VF検査を実施しており、耳鼻咽喉科が専門の病院長、言語聴覚士（ST）、看護師が多職種連携して、経管栄養や絶食（点滴）患者さんが早めに経口摂取への移行もしくは代替手段の選定ができるよう、協力体制をとっています。

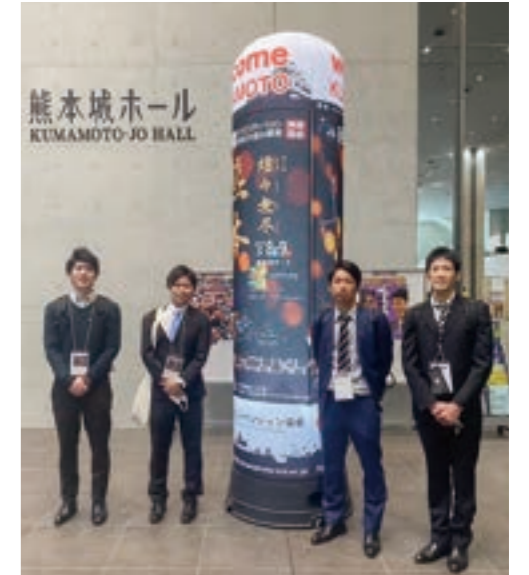


防災訓練

令和6年4月1日（月）に新入職者を対象に、日中に火災が発生したと想定した防災訓練を実施しました。内容としては、火災発生後の初期対応、院内に設置している防災設備についての説明、消火器を使用した消火訓練をおこないました。今回参加した新入職者の半数以上が消火器に触れたことがないとのことでしたが、不慣れながらも真剣に取り組んでいました。次回は夜間想定での防災訓練を秋に実施予定です。

学会発表

回復期リハビリテーション病棟協会第43回研究大会

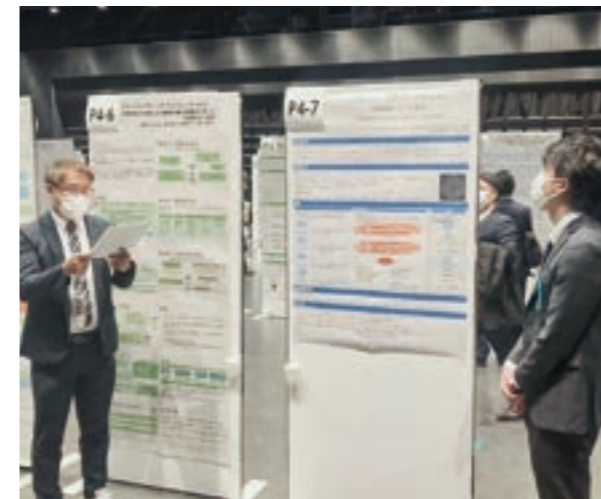


回復期リハビリテーション病棟協会第43回研究大会が令和6年3月8日（金）・3月9日（土）の2日間にわたり熊本県の熊本城ホールで開催されました。本大会は元々、令和3年2月に開催予定でしたが新型コロナウイルス感染症蔓延の為中止となりました。コロナ明けに伴い今回熊本での現地開催が実現されました。今回のテーマは「燈々無尽」であり、「一つの燈火を消すことなく次々に繋ぎ続け永遠に尽きることなく燈し続けること」を意味しており「リハビリテーション医療において、先輩から受け継いだものをその質をより高めて後輩へ渡していくことが大切」という思いのもと開催されました。

現在、全国の回復期リハビリテーション病院数は、1,500施設、病床数90,000床を超えており、回復期リハビリテーション医療の位置づけや役割はますます重要に

なっています。当院は240床の回復期リハビリテーション病棟として令和4年に開院し、リハビリテーションの質の向上を図っていく必要があると感じております。その足がかりとして、当院より4名の理学療法士（松坂、内藤、村上、吉澤）が研究大会に参加し発表を行いました。準備から発表までの過程や、他施設の医療従事者と意見交換することで多くの学び、知見を広げられ、貴重な経験をさせて頂きました。また、福祉機器展も開催されており、新型の下肢装具やVR体験、疑似体験を通して現在の科学技術の発展や最新の医療機器を学び今後の患者さんへ還元できると感じました。

今後も引き続き、各療法士が研鑽に励むと同時に、患者さんにより良いリハビリテーションを提供できるよう精進して参ります。





松崎
出身地：山口県

栃木の宇都宮と言えば餃子、山口と言えば松崎恭優です。大変失礼しました…山口の魅力と言えば海の幸が美味しいところです。デートプランとして昼は唐戸市場で新鮮な魚を食べて、夜は角島大橋でドライブデート、ロマンチストの方はぜひ来た方がいいです。以上、山口県の観光大使がお送りしました。俺に惚れるなよ!

リハビリテーションスタッフ ご当地自慢



小宮
出身地：福岡県

福岡はとにかくご飯がおいしいです。豚骨ラーメン、水炊き、もつ鍋など様々な食事を楽しめます。

有名な食べ物だけでなく実は様々なお菓子の九州醤油味が九州限定で販売しています。

観光地としても有名な太宰府天満宮では、受験の神様で有名で年末になると全国から多くの受験生が訪れます!

最高のグルメ、観光地にあふれている福岡に是非来てみてください!!



飯島
出身地：栃木県

私の出身は栃木県真岡市になります。真岡市は栃木県の右下辺りに位置しています。北関東自動車道をご利用の方であれば、真岡ICの名前を目にしたことはあるかと思いますが、ちなみに、「真岡」と書いて(もおか)と読みます。(まおか)ではありません。

真岡市で有名な物としては、SL運行で有名な真岡鐵道があります。真岡鐵道は下館～茂木間を繋いでいる第3セクターが運営する鉄道になります。意外と歴史が長い路線らしいです。真岡駅舎はSLの形を模して造られていたりするので、鉄道好きな方は一度足を運んでみて下さい。



佐藤
出身地：東京都

『月曜から夜更かし』という番組はご存じでしょうか?内容に「大袈裟だろ」って思った方は是非、東京の蒲田駅前に足を運んでみて下さい。リアルな月曜から夜更かしを体験できますよ。また日本一居酒屋が多い町と言われており、いろいろなタイプのお店があるので、お酒好きの方も是非いらしてください。

新宇都宮リハビリテーション病院 実績DATA

開院してからの令和5年度の実績をご紹介します。
(令和5年4月1日～令和6年3月31日)



患者受入総数

1159名

在宅復帰率

93.6%

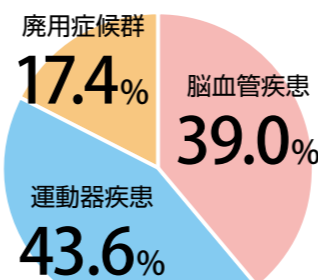
全国平均79.1%

入院患者さんの平均年齢

74.5歳

全国平均76.9歳

疾病別内訳



紹介から入院までの日数

9.0日

全国平均12.4日

患者満足度

90.0/100点

評価点



むすびプロジェクト



「むすびプロジェクト」は当グループのリハビリ病院を退院された患者様が、退院後もその人らしく生きいきと生活していただけるよう、支援するための取り組みです。今回はその取り組みのひとつをご紹介します。

第2回 むすびプロジェクト研修会 ～地域の事業所との連携～

令和5年11月27日に関東カマチグループ17病院の職員を対象にむすびプロジェクト研修会を開催しました。第2回目となった今回は、蒲田リハビリテーション病院を退院された患者様と退院後の支援に関わられた介護支援専門員・自立訓練事業所の理学療法士・訪問リハビリの作業療法士、地域の支援事業所スタッフ5名をお招きし、シンポジウム形式で開催しました。脳卒中を発症後に新規就労を目指している事例を通して、回復期リハビリテーション病院、地域の支援事業所との連携についての経緯や支援内容と今後の支援について、ご講義をいただきました。総勢350名程のグループ病院の職員が現地・Zoomにて集い退院後の地域の支援事業所との連携の大切さに関する知識を深めました。患者様の声を直接聞いたこともとても貴重な機会となりました。今後も患者様へのサービスの質の向上につながるよう研修会を企画していきます。



▲ 現地・ZOOMを合わせて約350名が参加しました。